

2017年度は、私が院長となったこと、外部からの常勤の応援を得られなかったことなどから、心不全などの循環器疾患の入院患者を他の診療科の先生にお願いすることとなった。このため、入院患者のデータは、循環器疾患の患者のみにしぼって報告する。2017年度の循環器疾患に限った入院数は136名であった。高齢者の増加は相変わらずで、入院患者の平均年齢は80歳を超えており、80.5歳（中央値 82 歳）であった。このうち死亡された患者は14名で10%であった。入院の疾患別内訳としては心不全が最も多く、60名（慢性心不全の急性増悪45名、急性心不全15名）。心筋梗塞での入院は4名。急性期治療の目的で熊本市内の急性期病院へ転送となった急性心筋梗塞の患者が10名であった。

急性大動脈解離は、転送が4名、当院への入院が2名、CPAOAが1名（計6名）であった。その他、腹部大動脈瘤3名、ASO、DVTが各1名、人工弁置換術後など弁膜症が4名、不整脈が4名であった。当院の全体の入院患者の平均年齢は79歳で、半数以上の方が80歳以上である。このため、骨折などで入院される高齢者も多く、そういった患者では、心房細動、慢性心不全、大動脈弁疾患などの合併も多く、そのような患者の管理も最近増加している。

(表1) 入院患者の疾患内訳

疾患	人数
急性心筋梗塞（転送を含む）	14
急性大動脈解離（CPAOAを含む）	7
心不全	60
不整脈	4
狭心症、OMI	2
血管疾患	5
弁膜症	4

(例)

外来では、私の他に、済生会熊本病院心臓血管外科の医師が2回/月、後半は毎週担当した。

外来患者の多くは生活習慣病が中心の患者である。毎月約900人の患者の診療を行った。なかでも糖尿病の症例は増加が著しく、約25%程度となっている。

外来で定期的にペースメーカーチェックも行っている患者も60数名いる。

循環器関連の検査は前年度と大きな変化はない。

心電図：3,836件、トレッドミル：28件、ホルター：144件、

心エコー：1,568件、負荷心エコー：11件、ABI：126件、下肢動脈エコー：61件、下肢静脈エコー：122件、頸部血管エコー：169件であった。

(表2) 循環器関連検査の内訳

(件)

	2016年	2017年
心エコー	1,439	1,568
負荷エコー	10	11
トレッドミル	34	28
ホルター	135	144
頸部血管エコー	131	169
下肢血管エコー	175	183
ABI	125	126
心臓CT	15	24
血管CT&MRI	130	123

